

大学名 九州大学 都市研究センター

第65号 特集テーマ「気候変動対策
—地球とわれわれの未来のために—」

表題 気候変動と生物多様性の危機対策 意思決定に科学的根拠を

特色ある取組

国連気候変動枠組み条約や国連生物多様性条約などの国際的な枠組みの意思決定の際に、気候と生物多様性と社会の関係性についての科学的根拠の取り入れが驚くほど遅れている。

そこで、気候変動に関する政府間パネル(IPCC)と生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学と政策プラットフォーム(IPBES)が協力して、気候変動と生物多様性の初の報告書を出版した。アジア太平洋から唯一の統括代表執筆者として、以下を提言；

地球の緊急事態に効果的かつ公平に対処するためには、経済や社会全体で深く緊急に変化を起こし自然資本を高めネイチャーポジティブ(自然資本の増加)を推進することが重要であると論じた。

自然資本は、馬奈木が代表をつとめる国連・新国富報告書(Inclusive Wealth Report)にて、理論化し、世界各国データを公表している。

期待できる成果

- 自然資本を増加させることを明言しているのは、英国であり、アメリカ合衆国は、地域ごとの自然資本把握に取り組むことを政策的に明言している。センターにて、世界各国地域ごとの自然資本評価を行い、気候変動、生物多様性の危機対策のために、緊急かつ決定的な生態系を維持し、かつ排出量削減を実行できる行動を企業・世界各国自治体と共同で実施する。

九州大学 × SDGs
sdgs.kyushu-u.ac.jp/
馬奈木俊介研究室
managi-lab.com/

